

大山崎町 校務 DX 計画

「GIGA スクール構想の下での校務の DX 化チェックリスト」34 項目において、本町の主な課題に対して以下のとおり取り組む。

1. 学校から保護者に発信する配布物等をクラウドサービスにて一斉配信すること
現行の一斉メールサービスのアプリ機能の活用を進め、各種文書、関係機関からの通知等を一斉配信し、保護者が紙文書ではなくスマートフォン等で確認することで、連絡物の紛失、渡し忘れの防止を図る。さらに、印刷や配布等のコスト削減も期待できる。
2. FAX でのやりとり・押印の見直し
現時点においても、FAX の使用頻度は少なくなってきているが、相手方のネットワーク環境の問題もあり、一部の事業者との連絡手段として用いているところである。メールやクラウドツールに移行することに理解を求め、将来的には FAX でのやり取りを無くすことを目指す。
また、押印についても、依然として相手方の求めに応じて必要となるケースもあるが、省略できるものは省略しているところである。
令和 6 年 8 月 9 日付け文部科学省事務連絡「学校等の FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を踏まえ、引き続き取り組みを推進する。
3. 校務系ネットワークで使用するシステムのクラウド化
文部科学省が示す「学校情報化セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づき、令和 6 年 8 月に校務系ネットワークで使用できるクラウドサービスやツールを整備した。教育委員会を含めた大山崎町内の教育機関（小学校及び中学校）で共通のクラウドサービスやツール（SharePoint、Teams 等）が利用できる環境を整えたことで、情報共有や連携を円滑に行えるようになった。これにより、児童生徒や保護者が抱える課題の情報共有、協議をより綿密に行える環境が整った。校務系システムに蓄積される情報や機微度が高い情報へのアクセスについては、文科省の「GIGA スクール構想の下での校務 DX について」で示された、「いわゆるゼロトラストセキュリティに関する要素技術」に記載の要素技術を複数組み合わせ多層防御の環境を実現しセキュリティを確保した。また、シームレスなネットワーク基盤を構築し、校務系と学習系のデータを円滑に連携させることができる環境とした。
4. 校務 DX の更なる推進へ向けた取り組みについて
上記のとおり令和 6 年度に整備したクラウド版の校務系ネットワークを基盤として、今

後導入を予定している「いじめリスクアセスメントアプリ」等のクラウドツールの活用を推進する。また、校務及び学習における生成 AI サービスの導入も検討し、将来的には校務系と学習系の各種データを掛け合わせて可視化し、その可視化したデータを基に児童生徒の個別最適な指導を実現し、教育の質の向上を目指す。

これにより、児童生徒・保護者との効果的・効率的なコミュニケーションの充実、学習面・生活面における課題の早期発見に繋げ、不登校児童生徒数の減少や学力向上を実現する。